

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2370401164		
法人名	社会福祉法人 愛生福祉会		
事業所名	グループホーム中小田井 1階		
所在地	愛知県名古屋市区中小田井5丁目240番地		
自己評価作成日	令和2年1月18日	評価結果市町村受理日	令和3年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2370401164-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2370401164-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市区熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和2年10月7日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者様の希望に沿った外出支援に取り組んでいます。定期的に外出支援を行うことで地域の方との交流や自宅での生活をそのまま維持できるようにしています。解放的で開けた環境作りにも力を入れ、風通しの良い施設での生活を日々利用者様に楽しんで頂いております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームの継続した取り組みとして、当ホームでは早い時期から共用型のデイサービスを開設しており、利用者がデイサービスでホームの生活に慣れてから、利用者の段階に合わせながらグループホームに入居することができる支援が行われている。利用者や家族にとっては、円滑に生活場所を移行できる利点にもつながっている。日常生活についても、利用者一人ひとりができることに参加する支援が検討され、利用者がホームでの生活が前向きなものになるような取り組みが行われている。また、災害対策については、当ホームの近隣に関連事業所の特別養護老人ホームがあることで、非常災害時には利用者の避難先としての協力関係がつけられている。実際に水害が想定された天候の際には、ホームから利用者が避難しており、運営法人全体で利用者の生命を守る取り組みが行われている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「みんな大切な人～笑顔に包まれて～」という事業所理念のもと、実践している。全員に完全に浸透しているかというところでもないところもある。	運営法人の基本理念の他にも独自の理念もつくられており、利用者を大切に思うことを目指した内容の理念を掲げている。ホーム内に理念を掲示し、職員間で理念の内容を共有する取り組みが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会の行事(秋祭り)の手伝いには職員が参加をしているが、日常的には挨拶程度である。今年度はコロナウイルス感染予防のためできていない。	感染症問題があることで地域の方との交流が困難になっているが、「地域ふれあいデー」として、地域の方との交流の機会を設けている。また、利用者間で地域の回覧板を回す等、利用者一人ひとりが地域の一員である働きかけも行われている。	ホームでは、地域の方との様々な交流の取り組みが行われている。感染症問題が落ち着いた際には、地域の方との交流の取り組みが再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今年度はコロナウイルス感染予防のためできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	FAXにて会議参加メンバーから地域向け行事に意見を頂き、参考にしてしている。	今年度は書面による実施となっているが、例年は、地域の方の参加が得られていることで、地域に関する情報交換の機会にもつながっている。また、関連事業所の職員も参加しており、定期的な交流が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	日頃から連絡を密にとることはできていない。	市担当部署との情報交換等は、運営法人を通じて行われているが、研修会等にはホームからも参加する機会をつくり、情報交換等が行われている。また、地域包括支援センターとも、地域で行われているサロン等を通じた情報交換が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設内研修にて身体拘束について書面配布での研修を実施している。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、利用者が自由に外に出ることができるように、職員間で利用者に合わせて対応が行われている。また、運営推進会議を通じた身体拘束に関する検討や定期的な職員研修が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待について、施設内研修にて研修を実施している。言葉遣いの徹底、接遇マナーの研修に取り組み、言葉による心理的虐待防止に努めている。(書面配布にて実施)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常の意思決定においても、今後成年後見人が付く方がいるので情報共有していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	法改正時、契約書類・重要事項説明書の再交付を行い、不安や疑問に対してはその都度、回答をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族様が直接本部の相談室へ電話連絡を行なえるようになっている。家族様・利用者様の意見を会議で相談し、反映出来るようにしている。	ホームで定期的に行われている「地域ふれあいデー」には、家族にも案内が行われており、家族との交流につなげている。苦情相談担当者と苦情解決者を分ける対応が行われている。また、利用者の現状報告を行う取り組みも行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員が直接本部の相談室へ電話連絡が可能。会議や面談の場で意見・提案を聞き、申し送りにて随時反映を行っている。	毎月の職員会議は、現状書面による実施であるが、日常的な情報交換の機会がつけられていることで、職員からの意見等をホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、管理者による職員面談も行われており、一人ひとりの把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回、人事考課や自己申告書により、個人の能力や実績、希望などを把握している。代表者も内容を確認し、必要に応じて代表者の意見を本人に伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外の研修は当初計画していたが、研修自体が中止になるなど実施出来ていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	今年度は実施出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人様とお話ししたり、生活暦やご家族からの聞き取りでどのような方が情報収集し、安心して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	施設で実現可能な要望は極力実施するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	共用型デイサービスを利用してもらうことで、入所の見極めを行うことができている。また、入所申し込みにみえた方に対しては状況をお聴きし、担当ケアマネジャーとも情報共有するときもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人のできることを見極め、可能な限り行っていたくように努めている。料理や掃除等も一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	何かあれば連絡するようにしている。直に会っての面会ができないため、スマホアプリLINE電話を利用するテレビ電話を導入した。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人・知人の面会はあるが、受け身の立場であり、積極的な支援まで至っていない。	共用型のデイサービスの方を通じた交流をはじめ、入居前からの交流を継続している方や、家族の協力を得た、行きつけの美容院に出かけている方もいる。また、身内の方の法事を通じた外出も行われており、馴染みの関係継続にもつながっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	それぞれの関係性を見極め、関わりがうまくいくように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	同法人の特別養護老人ホーム等に入所された方に対して、密に情報交換を行うことができるが、他法人や入院された場合には、情報交換を行っていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思表示が困難な方が増え、そういった場合は過去の関わりや本人様の表情から読み取るよう努めている。	職員間で利用者を担当する取り組みも行いながら、利用者の意向等の把握を行い、職員間での共有につなげている。また、申し送りの内容には、利用者に関する情報も記載されており、利用者の意向等を日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族様・利用者様から聞いた情報、生活史を出来るだけ聞き取り、支援に活かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護記録や申し送りノートを活用し、全職員が現状を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	こうしたらどうか、などの意見が出た場合は次回更新時に反映できるようにしているが、ベストなタイミングで更新ができていない。	介護計画については6か月で見直しが行われており、モニタリングについても計画の見直しに合わせて実施している。また、日常的にも介護計画に関するチェックを行いながら、利用者の状態変化等に合わせた計画の見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子を日誌や申し送りで伝えることは出来ているが、実践や計画の見直しまで行っていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人や家族様の希望があれば、職員にて可能な限り対応をしているが、既存のサービス内でのサービス提供しかできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	日常的に地域資源を活かす取り組みはできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	一人を除いた全ての利用者様が施設の嘱託医をかかりつけ医としている。必要に応じて希望のある総合病院への受診を行っている。	ホームでは、協力医による定期的及び随時の医療面での支援が行われているが、利用者の中には今までのかかりつけ医を継続している方もあり、家族の支援で受診が行われている。また、ホーム近隣の医療機関とも随時の連携が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に1回の訪問看護師へ利用者の状態を報告・相談し、必要に応じて受診等の対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関と密に連絡を取り、利用者様の情報共有に努めている。早期退院できるように受け入れ可能な状態を入院先の病院に伝えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化・終末期に対して、ご家族に早めに現状報告と今後の見通しを伝えることができた。重度化した場合の多くは、同法人の特別養護老人ホームへの入所ができるように連携している。	利用者の身体状態に合わせながら、次の生活場所への移行支援が行われていることもあり、家族には看取り支援には対応していないことを説明している。ホームでも可能な限り支援が行われており、身体状態が重い方もホームでの生活を継続している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	応急手当や初期対応の訓練を定期的に行うことができず、全ての職員ができていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災訓練を通して、避難方法を学ぶ機会を設けているが、全職員が把握できていない。隣人を含めた防災訓練を年1回計画しているが今年度は見通しがついていない。	避難訓練については、今年度から毎月の実施に戻っており、様々な状況を想定した取り組みが行われている。水害を想定を訓練を行っている他、関連事業所と連携した対応も行われている。また、ホーム内に水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	ホームでは、避難訓練の実施回数を毎月に戻す等、災害に関する取り組みの強化が行われている。災害に関するホームの継続的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	接遇マナーの研修を施設内研修にて実施しているが、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしまう場面が見られる。	運営法人の基本理念にも利用者の対応に関する内容が記載されており、職員が利用者への対応や言葉遣い等を意識する機会につなげている。また、接遇に関する職員研修も行われており、職員の振り返りや注意喚起につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定ができる方への支援が職員都合でできなくなっている時がある。また認知症により自己決定の難しい方への支援ができていない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の希望がはっきりと分かる方への支援はできているが、ほとんどの方が、施設の日課に沿って生活をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	可能な方へは、衣類の買い物を職員とともに行き、選んでいただいている。日常的に衣類を着る際には職員の都合で選んでしまっている場合が多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	可能な方には、食事準備・片付けを職員とともにしている。その方の状態に合わせた食事形態を取っている。	食事のメニューを職員で考え、利用者の好みや嗜好等に合わせた対応が行われている。利用者も調理や片付け等のできることに参加している。また、おやつ作りや季節や行事等に合わせた食事作りの他にも、職員も一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立を管理栄養士に確認してもらい、作成している。一人ひとりの食事量の把握・介助の有無を把握できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	本人のタイミングで毎食後歯磨きをされる方や全介助の方の口腔ケアは毎食後実施しているが、他の方に関しては、就寝前の口腔ケアが中心となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄記録を残し、排泄パターンを把握し、排泄の失敗を減らすようにトイレ誘導を行っている。	利用者全員の排泄記録を残し、利用者毎に分けられた記録や申し送り等を通じて、身体状態に合わせた排泄支援につなげている。トイレでの排泄を基本に考えながら、オムツからパンツに移行する等、排泄状態の維持、改善に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄記録により、排便の状態を確認し、適切な下剤使用を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	二日に一度の入浴で声をかけている。拒否が強い場合はタイミングを変更したり、どうしても困難なときは翌日に変更している。	利用者が1日おきに入浴できるように支援が行われており、週3～4回入浴している。デイサービスを行っていることで毎日の入浴の準備が行われており、柔軟な対応も行われている。また、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人の生活リズムと施設の日課を照らし合わせ、適切な入眠時間が確保できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者様の薬剤が一覧で確認できるようにファイリングしてあるが、すべての職員が確実に理解できている状態まで達していない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ラジオ体操や歌レク・散歩を毎日実施している。コロナ禍のため限られた中でのレクリエーションを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	施設の周りを散歩する事はできている。	感染症問題があることで利用者の外出が困難になっているが、可能な範囲で散歩に出かける等の支援が行われている。例年は、季節に合わせた外出行事や関連事業所で行われている行事にホームからも参加する機会がつけられている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理にて少額のお金を持っている方がいるが、ほとんどの方は、施設にて預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望があれば対応することがあるが、本人からの希望自体が少ない。ご家族からの電話を取り次いだりはしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者様にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮している。季節の飾り付けを行い四季を感じて頂けるようにしている。	ホームのリビングは広めの空間が確保されており、利用者は毎日をゆったりと過ごすことができる生活環境がつくられている。玄関ホールには、利用者による様々な作品が飾られており、アットホームな雰囲気づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	和室にテレビを置くことで、食卓やリビングなど好きなところで過ごすことのできる空間作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	可能な限り本人の使い慣れたものを活かして居心地よく過ごせる居室作りを行っている。家族様にも協力して頂いている。今年度入居前の家から一式持って入居された方もいる。	居室には、利用者や家族の意向に合わせた馴染みのある家具類が持ち込まれており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、利用者の中にはベッド以外で生活している方もあり、入居前からの生活の延長にもつながっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	可能な限り安全で自立した生活が送れるように工夫しているが、車イスやソファなどが置いてある場所で危険な箇所が存在している。		